

職種紹介

interview

掲載されている職種は一部です。他にも様々な職種がありますので、詳しくは「職員インタビュー」をご覧ください！



秋田県庁職員のお仕事紹介動画公開中！



秋田県職員
採用総合案内
2026




行政・一般事務

中学生の頃の職場体験で県庁を訪れました。職員の方の「全ては県民のために」というお話に感銘を受けたことが公務員を目指したきっかけです。公務員の本質は、公益という旗印のもと、住民の皆さんが安心して暮らせる「当たり前の日常」を守り抜くこと。これはこの仕事にしかできない使命だと感じています。

今は地域振興局で出納の仕事を担当しています。県民の皆様からお預かりした大切な税金が、適正な目的

に、正確に使われているかを厳しく確認する、責任の重い仕事です。

一方で、マルチワーク制度を活用し、企画系の部署の業務も経験しています。マルチワーク制度やジョブローテーションを通じて県庁の多岐にわたる業務を知ることができると感じています。県民の皆さんの暮らしを守るために、色々な経験を積んでいきたいですね。

利益追求ではなく、公益のために働く。主体である県民の暮らしを守るために、自分自身も成長していきたい。



そのままの人生を歩んでいたら得られなかった経験や知識。新たな発見にうれしくなります。

行政（職務経験）

前職のとき、コロナ禍で秋田県庁への出向を経験しました。県庁での勤務で感じたのは、言葉に思いやりがあり、相手を尊重してくれること。相談し合える環境で、仕事を抱え込むことはありません。以前の職場はサービス業で、その日その日に対応する職場でした。仕事は好きでやりがいも感じていましたが、自分のライフステージを考え、地元に戻り、県庁で働きたいという思いが芽生えて、応募しました。

今は海外進出を目指す企業に向けた補助金の案内、協議会の運営やセミナーの企画・運営などを行っています。自分の発言が県の立場を示すことになるため、責任感は増えました。今の仕事は、長期的な目線で1年を通じて仕事を積み重ねて達成感が得られる環境だと感じています。



秋田県の「教育行政」の仕事に興味を持って応募。学校事務として、子どもたちの学びを支えたい！

教育行政・教育事務

大学で教育学部に進学し、学校教育を取り巻く課題に関心を持っていました。卒業後は民間の教育関係の企業に就職しましたが、結婚を機に秋田へ移住。秋田県庁には一般行政とは別の区分で教育行政の募集があります。学校事務職員として働いて、子どもたちの学びをサポートしたいと思い、応募しました。

入庁前はマニュアルに沿って淡々と仕事をするイメージでしたが、実際は自分で判断して仕事を進める場面が多く、考え方や意見を反映できると実感しています。もちろん、分からないことは経験も知識も豊富な先輩たちが教えてくれます。今、学校に赴任して2年目ですが少しずつ新しい業務を任せてもらえるようになりました。いつか自分も先輩たちのような存在になりたいですね。



建築（職務経験）

都内の大学を卒業後、全国展開している住宅メーカーに入社し、戸建住宅の現場監督や、設計の仕事を経験しました。その後首都圏の自治体で建築職の技術職員として勤務していました。私も主人もお互いに楽しさを感じています。また、秋田出身のため、将来は地元に戻り、故郷に貢献したいと話合っていました。県の担当部署に移住相談をしたことをきっかけに、秋田県職員の職務経験者募集のことを知り、応募しました。

秋田県庁では幅広い業務に対応することが求められます。現在の部署では、問い合わせ等への対応を通じて、日々新たな知識が増えることに楽しさを感じています。また、チームリーダーが課題に対して「考えてみて」と仕事を振ってくれるので、作業ではなく、先を見据えて考える仕事でできて、充実した毎日を過ごせています。

じっくり考え、仕事に取り組める一方、一人で背負わずに、チームで動く。アットホームで働きやすい雰囲気です。






心理判定

県外の大学で心理学を専攻し、子どもの発達心理・成長の部分に関わる仕事に就きたいと思い、県庁を志望しました。今は児童相談所で心理判定業務を行っています。職員として業務にあたるようになり、責任感も芽生えました。この仕事はさまざまなお子さん、親御さん、ご家庭と向き合う仕事です。臨機応変にそれぞれに対応していくことが求められます。課内では意見交換をしたり、アドバイスをいただいたり、一人で抱え込まないような雰囲気があります。ありたいです。



今は児童福祉司の業務にも興味があり、資格取得を目指したいと思うようになりました。県の制度として受験費用の助成も受けられるので、活用させてもらいながら、より現場で役に立つ人材を目指していきたいです。

心理学という知識を持って発達相談や虐待相談に対応。難しいけれど県民の皆さんの生活の向上に役立ちたい!



土木

東日本大震災をはじめ、昨今頻りに発生する自然災害を目の当たりにし、災害に強い社会インフラ整備の重要性を感じました。秋田高専で土木を専攻し、自分自身が土木技術者として防災対策に携わることで秋田県の持続可能な社会形成に貢献したいと思い、秋田県庁を志望しました。

現在は地域振興局で道路や河川の改築事業に携わっており、計画、設計、工事監督など、事業の計画段階から完成まで一貫した業務を行っています。自分の仕事は地域の方々の生活を支える重要なもので、大きな責任を伴います。しかし、諸先輩方からサポートをいただきながら、気軽に周囲に相談できる環境が整っています。日常的に地域の方々とお話する機会があるので、その声や思いをインフラ整備に反映していきたい。秋田の未来を担う技術者として誇りを持ち、安全に暮らせる秋田県の地域社会形成に寄与していきたいです。



地域住民の方々の視点に寄り添い、ともに作り上げる。地域の方々と力を合わせて秋田を盛り上げたい!



保健師

大学で看護学を専攻し、病気の予防をサポートできると考えて保健師を目指しました。県全体で仕事できることが魅力と感じ、県庁を選びました。異動によってさまざまな地域のことを知れるのがひとつの魅力です。最初の赴任先は平鹿でしたが、県北出身の自分にとっては新鮮な発見が多かったと思います。

今は精神障害者保健福祉手帳を交付するための業務等を行っています。

不安を抱えている方の相談に応じることが多く、必要とされる仕事だと感じます。保健師の仕事は多岐にわたるため、今は幅広いジャンルの研修を自発的に受けるようにしています。入庁当時の「ブラザー・シスター制度」で担当してくれた先輩が頼りになる方でした。自分もいてくれてよかったと思われる人を目指したいです。

自分がどの専門家になれるか模索中。この人がいて良かったと、住民の方にも同僚にも思ってもらえる人を目指したい!




電気

私は高専・大学で学んだ工学の知識を生かしたいと考え、電気職として入庁しました。これまでは、水力発電所の運営やメンテナンスを行っていましたが、現在は「工業用水道事業」に従事しています。秋田湾地区や御所野地区等の事業所へ工業用水を送る大切な仕事で、私は工業用水道の管理業務を委託している指定管理者からの報告内容を確認、チームへ共有する業務を担当しています。

入庁前は事務仕事が多いのかなと思っていましたが、発電所や浄水場へ赴いて点検を行う等、現場仕事も多いことに驚きました。インフラの保守に関わるようになり先輩方がこれまでも人々の暮らしを守っていたんだと感じています。わからないことも、先輩方が丁寧に教えてくれるのでとても働きやすく、新たなことに挑戦しようという雰囲気でも業務環境の改善にも積極的です。私も見習ってまいります。

学んだことが生かせる環境に魅力を感じて入庁。秋田の産業を支えていることを実感しています。





**専門知識は入庁後に研修があるので安心。
わからないことは先輩が丁寧に教えてくれます!**

農業農村工学

大学で学んだ農業土木の知識を、地域の方と関わりながら活かしたいと考えて、公務員を志望しました。地域振興局では本庁よりも生産者の方々と関わることが多く、直接お話を聞くことで、業務のモチベー

ションにつながっています。

農業農村工学分野では農業の生産基盤となる農地や、ため池、用排水路等を含む農業水利施設の整備事業を行っており、今は工事の実施担当として、主に農業用ため池の改修を行っています。具体的には設計書の作成や関係機関との調整、現場の監督業務などを行っており、入庁前に自分が携わりたいと思っていたことに関わっているなど感じています。これからも業務を通じて、地域や生産者の方々の役に立つ仕事をしていきたいです。



畜産

大学で畜産を学んでいました。一年生のとき、インターンシップで酪農を通じて地域を盛り上げたいと話す酪農家の方に出会いました。このような夢を持った方々を支援できる仕事がしたいと思い、県職員を志望しました。

入庁してから、本庁、地域振興局の2か所を経験しました。農家の方のサポートをするためには、大学で学んだ畜産の知識だけでなく、経営や販売の知識など様々な分野の勉強が必要だと感じています。また、飼

料作物についての相談を受けることが多いので、その分野の専門家になれるよう勉強していきたいです。

自身の発言は県の発言と受け止められることもあるため責任のある仕事だと感じる毎日ですが、一緒に働いたチームリーダーは皆さんから信頼され、頼りにされていました。その方を目標に、これからも経験を積んでいきたいです。

**本庁は県全体の情勢が見え、目指すべきものを学べた。
地域振興局は現場に近く、ライブ感に溢れている。**



農学

大学で農学を学んだので、それを生かして育った秋田の役に立ちたいという思いがあり、県職員を志望しました。今は地域振興局の農林部に所属し、おもに生産者の方への指導を行っています。実際にほ場に出向き、生育状況の確認、指導を行ったり、地域の課題に応じて新しい技術の実証や調査も行います。入庁前は、事務仕事がメインのイメージがありましたが、実際は外にいることがほ

とんどです。ほ場へ出向いて生産者の方とお話することが多く、自分が提供する技術や情報が営農の役に立っていることを実感します。

また、業務の環境としては、恵まれた十分な環境を与えてもらっていると感じています。この役割をいただいたことに感謝し、これから、農業分野の振興にもっと役立つ人材になりたいですね。

**社会は色々な役割を果たす人がいて成り立っている。
一生懸命に手足を動かして、自分の役割を果たしたい。**



**再造林、カーボンニュートラル…。
林学の分野で秋田の未来を支えるため
もっと勉強して役に立つ人材になりたい。**

林学

両親が森林に関わる仕事をしてきたこともあり、昔から自然が好きでした。中学生の頃、将来的に林業分野で働きたいと考え、林業が学べる高校へ進学しました。入庁前は、黙々と与えられた仕事をするイメージだったので、実際にはアットホームで自分の意見も出しやすい環境で、自由に仕事ができます。

林業は、長期的な計画を立てて森林を育てることが必要だからこそ、

結果が見えにくい分野。今の仕事で未来の豊かな森林につながっていくと考え、取り組んでいます。

専門的な職種ですが、さまざまな研修を受けることができるので安心です。また、一緒に働く方々や他の機関、事業者の方など、その分野のプロと交流することで自分の知識も増やしていけます。もっと勉強して、周りの素敵な先輩方に追いつきたいです。

